

(3) 産業

① 堺市

【農業】

- ・農業産出額は大阪府内1位を誇り、農産物のうち一部は、「泉州さかい育ち」や「堺のめぐみ」という地域ブランド名で出荷され、地産地消の推進をはじめ、地域農業の活性化に寄与しています。



「堺のめぐみ」の野菜

【工業】

- ・鉄鋼、機械、電子・デバイスなどを生産する大企業の製造拠点に加えて、高い技術力を有し、独自の事業を展開する中堅企業・中小企業が多数立地している強みがあります。
- ・長い歴史や文化によって育まれてきた刃物、線香、敷物、ちゅうせん注染・わざらし和晒、昆布、自転車といった多くの伝統・地場産業が、先人の「匠」から受け継がれています。特に「堺刃物」は、プロの料理人からも高い評価を受けているほか、鉄砲鍛冶たちの知恵が息づくといわれている「自転車」についても、現在、それぞれ国内の製造品出荷額の大きなシェアを占めています。



堺刃物



自転車（イメージ）

【観光】

- ・海外交易の拠点として発展し、中世の自由都市「堺」を起源とする環濠都市地域における由緒ある多くの寺院、きたはなごちよう北旅籠町周辺の古いまちなみ、千利休によって大成された茶の湯文化、刃物や線香等の伝統産業など、豊かな歴史文化資源が存在しています。
- ・毎年10月の「堺まつり」には、多くの人々が参加し、「ふとん太鼓」や「なんばん衣装行列」、「火縄銃隊」などの大パレードが行われます。また、「なんばん市」や「利休のふるさと堺大茶会」なども行われ、歴史と伝統に彩られたまち・堺の魅力が味わえます。



堺市茶室 伸庵



堺まつり

②羽曳野市

【農業】

- ・駒ヶ谷地区では、主にデラウェア種のぶどうが栽培され、大阪府内でも有数の出荷量を誇っています。
- ・古市地区を中心に栽培されるいちじくは関西では随一の生産量を誇ります。



デラウェア種のぶどう



いちじく

【食品】

- ・特産品であるぶどうやいちじくを活かしたワイン、ジャム、和菓子が製造されています。また、食肉産業が盛んであり、ハムの製造も行っています。



地場産ワイン



いちじくジャム

【観光】

- ・応神天皇を祀る日本最古の八幡宮といわれる^{こんだ}菅田八幡宮や江戸時代に歌舞伎・浄瑠璃に取り上げられた「お染久松」の主人公の墓があり「中の太子」として有名な^{やちゅうじ}野中寺、大坂夏の陣の直後に創建された吉村家住宅といった寺社や歴史資産があります。
- ・地元で生産されたぶどうを使用し、醸造したワインを取り扱う「河内ワイン館」があります。
- ・毎年5月の「市民フェスティバル」では、羽曳野市のご当地ヒーローのショーをはじめ、大抽選会やブースでの特産品の販売、各種団体のPR等を実施しており、多くの人が参加しています。



菅田八幡宮



野中寺



河内ワイン館

③藤井寺市

【農業】

- ・兼業農家や自給的農家が多数ですが、野菜や特産品のいちじくをはじめとする果樹等を近郊に出荷しています。また、地場農作物の地産地消や大阪府認証「大阪エコ農産物」の生産に取り組んでいます。

【工芸】

- ・伝統工芸「小山うちわ」は、戦国時代から一子相伝の秘法として代々継承されてきました。現在では後継者が途絶えており、商工会を中心として小山うちわの復活に取り組まれています。



小山うちわ

【食品】

- ・現在桜餅などの和菓子の材料として用いられる「道明寺^{ほし}糯（道明寺粉）」の起源は、菅原道真公が太宰府へ遷される平安時代にさかのぼり、その発祥は道明寺といわれています。



道明寺糯

【観光】

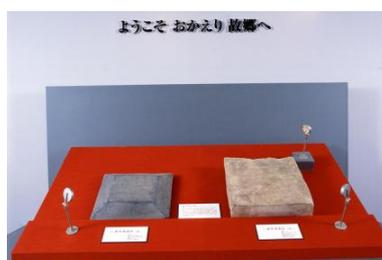
- ・菅原道真公ゆかりの道明寺天満宮及び道明寺、西国三十三カ所観音霊場五番札所の葛井寺、旧石器時代から中世まで続く国府遺跡など、多数の歴史的価値のある寺社や史跡があり、大坂夏の陣道明寺合戦ゆかりの地でもあります。
- ・8世紀、阿倍仲麻呂らとともに唐に渡り、現地で亡くなった日本人留学生・井真成^{いのまなり}を輩出したとされる地であり、市内には中国で発見された墓誌のレプリカがあります。また、現在、ご当地キャラクターとして「まなりくん」が市のPR活動を行っています。
- ・毎年9月の「しゅらまつり」には、多くの人々が参加し、よさこい鳴子踊りや河内音頭、フリーマーケット、縁日コーナー、物産市など、様々な催しが行われます。



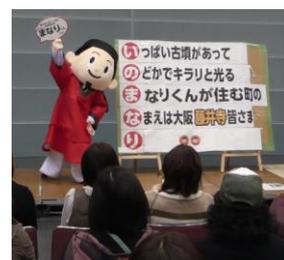
道明寺天満宮



葛井寺



井真成墓誌レプリカ



まなりくん

4. 関連計画

大阪府、堺市、羽曳野市及び藤井寺市において策定されている総合計画やまちづくり計画等の関連計画について、共通事項を以下のとおり整理します。

(1) 総合計画

府市の総合計画には、「安心・安全」や「快適・活力」などとともに「歴史文化などの地域資源の保全・活用」が位置付けられています。

地域への愛着や誇り、郷土愛の醸成、歴史文化資産の活用・継承など地域らしさを大切にすることや、交流や市民参加など人と人のつながりが重視されています。

(2) まちづくり

都市づくりの方針を定める都市計画マスタープランには、「活力・にぎわい」「安心・安全」「環境保全」を目標に、文化的・歴史的資源や歴史的背景を活かした魅力ある都市環境づくりの方針が示されています。

(3) 景観形成

景観形成に向けた方針を定める景観計画等には、地域の歴史、文化、風土等に根差した個性ある魅力的な景観の創造を重視しています。

また、自然景観の保全についても重視され、自然景観と歴史景観との調和を図ることが求められています。

5. 活性化に向けた現状の整理

地域の現状や関連計画を踏まえ、地域の特徴を整理すると以下のとおりです。

○豊かな地域資源

古代からの歴史ある地域であるため、百舌鳥・古市古墳群をはじめとする多くの歴史的文化的文化資産があります。また、交通の要衝地でもあり、古代から多くの人々が行き交った歴史街道（竹内街道、長尾街道、東高野街道、西高野街道）があります。

さらに、地場の農産物から生まれた特産品や歴史と共に育まれてきた名品が数多くあります。

○良好な交通アクセス

南海電鉄や近畿日本鉄道の私鉄、地下鉄、JR等鉄道交通が充実しており、大阪都心部や関西国際空港へのアクセスに優れています。また、道路交通においても、阪神高速道路や西名阪自動車道のインターチェンジが近くにあり、広域圏からの来訪に対しても高いポテンシャルを持っています。

○少子高齢化の進行

大阪府域全体の傾向と同様に少子高齢化が進行しています。高度成長期に大阪都市圏のベッドタウンとして人口が増加してきましたが、近年はほぼ横ばいであり、高齢化が進行しています。世帯数は一貫して増加していますが、1世帯あたりの人員は減少し続けています。

○地域の結びつきの希薄化

大阪府や各市の総合計画では、「活力・にぎわい」、「市民との協働」がキーワードとして掲げられていますが、高齢化の進行や世帯の細分化等により、地域と住民との結びつきが薄れつつあることが懸念されます。

○個性豊かな空間の減少

大阪府や各市のまちづくり・景観に関する計画では、「自然環境の保全」、「歴史・文化資源の活用」、「魅力ある都市づくり」が掲げられていますが、高度成長期の人口増加に対応するために住宅開発が進められた結果、農地や森林等の自然環境が減少しつつあるとともに、地域資源の活用や景観への配慮については十分とはいえない状況にあります。